

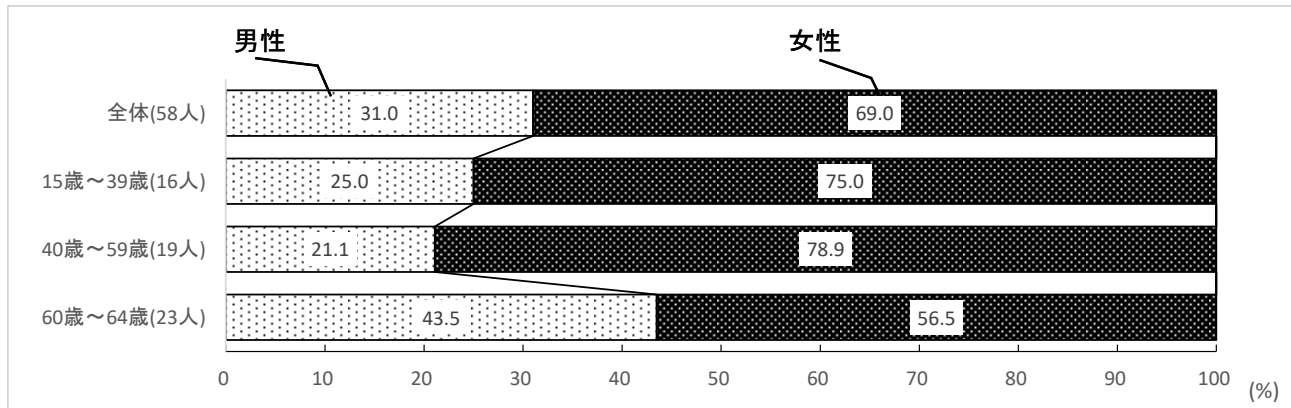
## IV 家族向けアンケート調査の結果

## IV 家族向けアンケート調査の結果

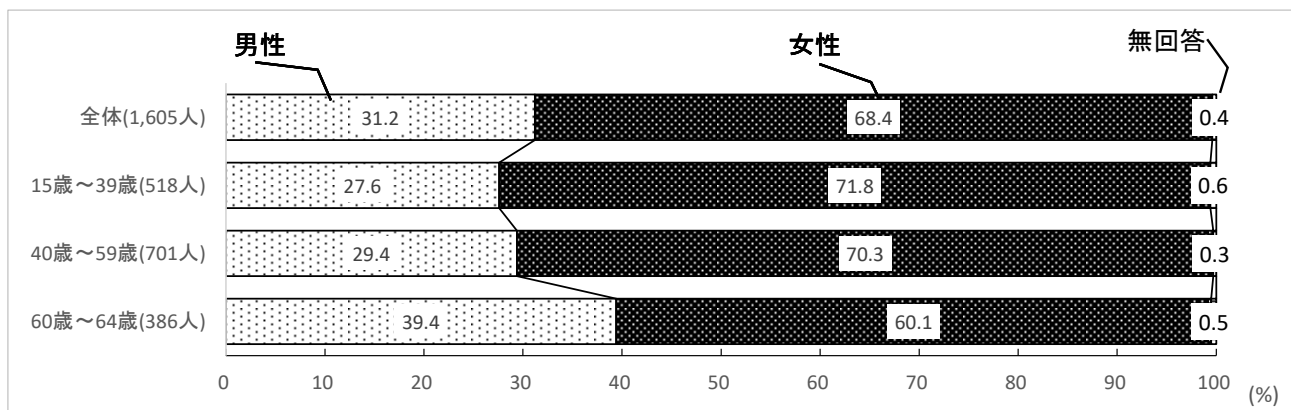
### (1) 調査対象者および家族の基本的属性について

#### Q1 あなたの性別をお答えください。(〇はひとつだけ)

##### 広義のひきこもり群



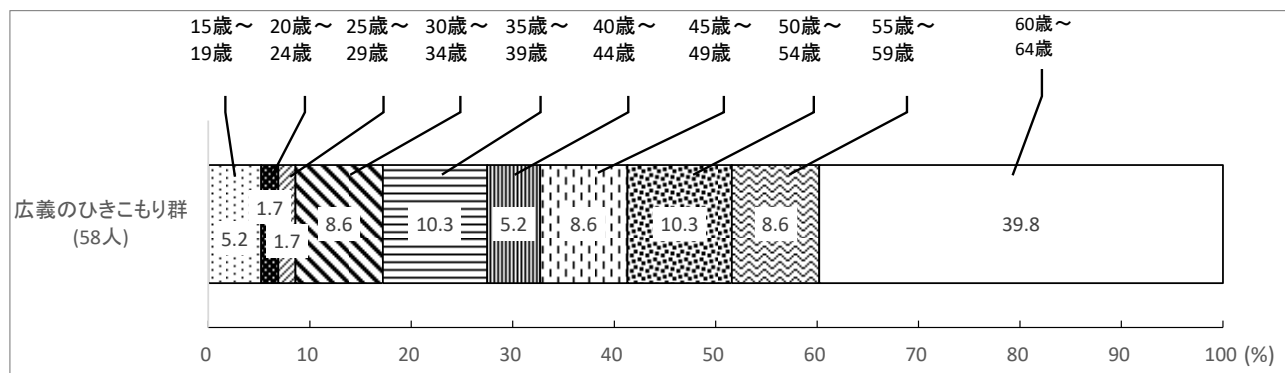
##### 一般群



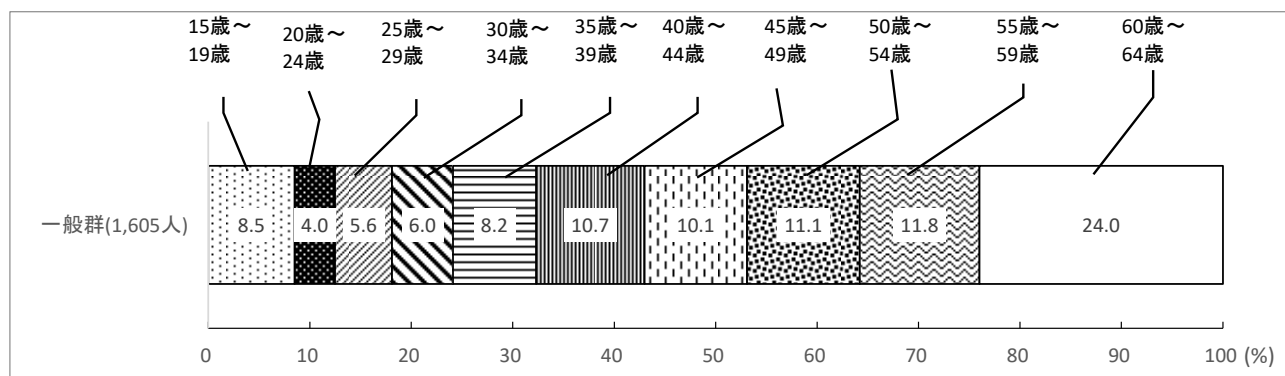
広義のひきこもり群，一般群共に女性の回答が多かった(広義のひきこもり群男性 31.0%，女性 69.0%，一般群男性 31.2%，女性 68.4%)。

Q2 調査対象者の方の年齢(令和2年4月1日現在)をお答えください。(〇はひとつだけ)

広義のひきこもり群



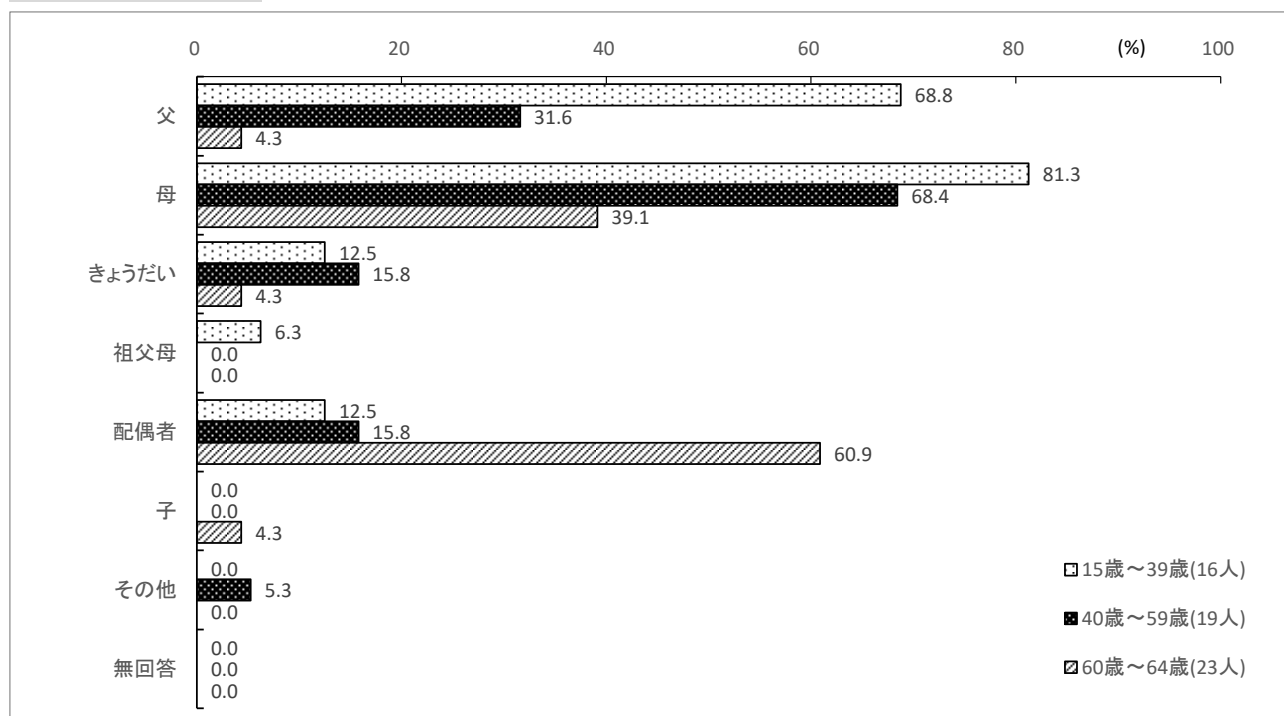
一般群



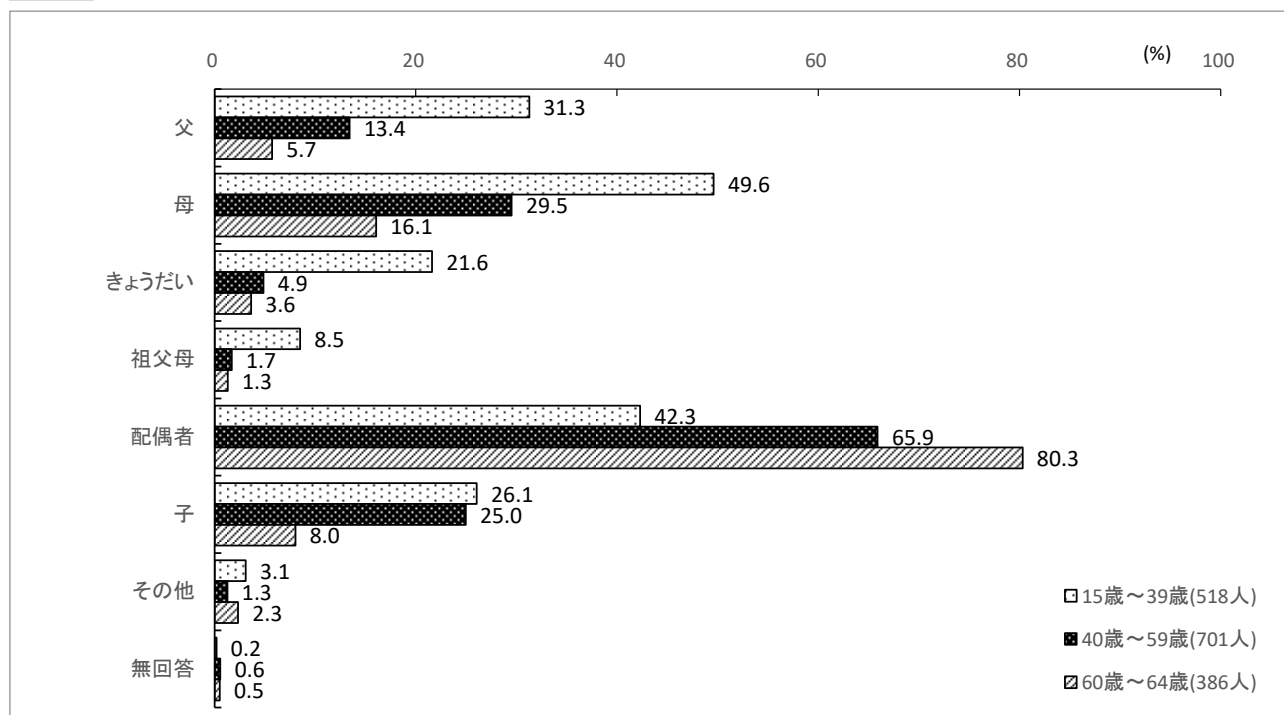
広義のひきこもり群では、60歳～64歳が39.8%と一番多くなっている。次いで35歳～39歳、50歳～54歳が10.3%と多い。

**Q3 現在、調査対象者の方と同居している調査対象者の方から見たご家族に○をつけてください。(○はいくつでも)**

広義のひきこもり群



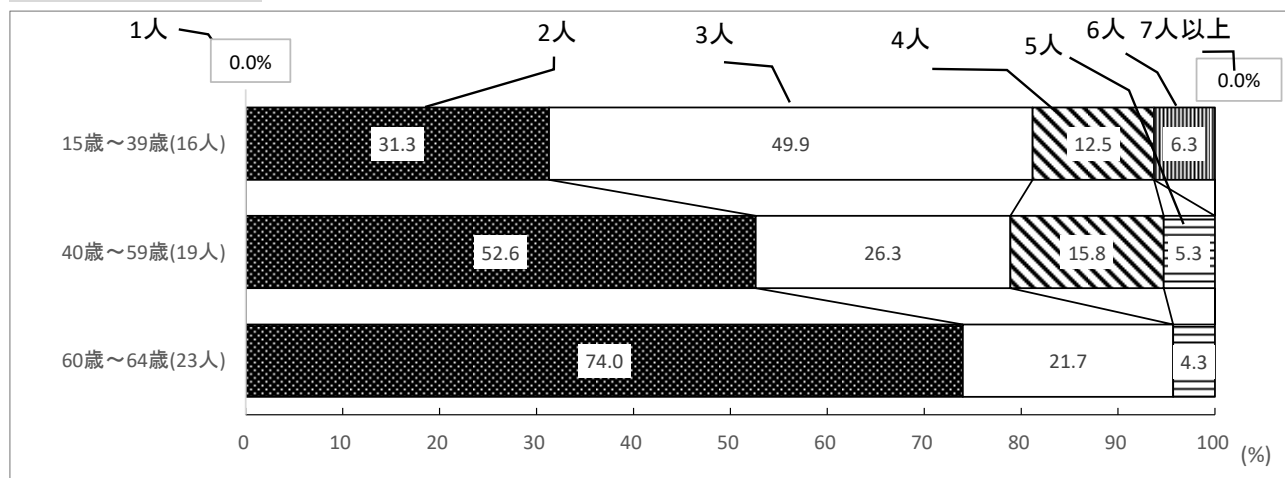
一般群



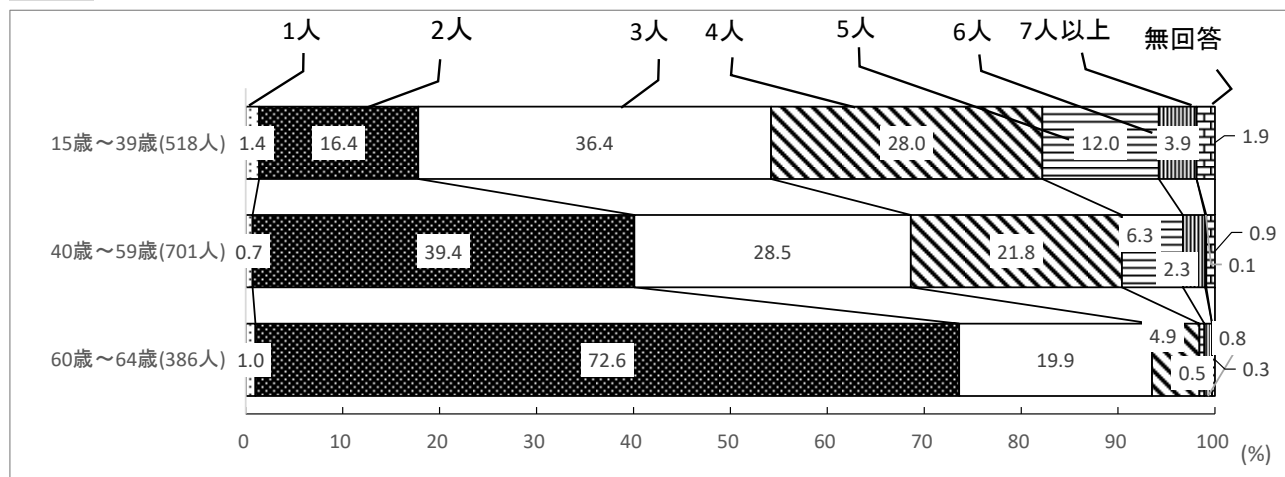
広義のひきこもり群において、15歳～39歳および40歳～59歳では「父」・「母」の割合が多かった。60歳～64歳では「配偶者」の割合が60.9%と多くなっている。

**Q4 現在、同居している人は合計で何人ですか。現在、調査票にご回答いただいている方および調査対象者の方も含めた人数を記入してください。(数字で具体的に)**

広義のひきこもり群



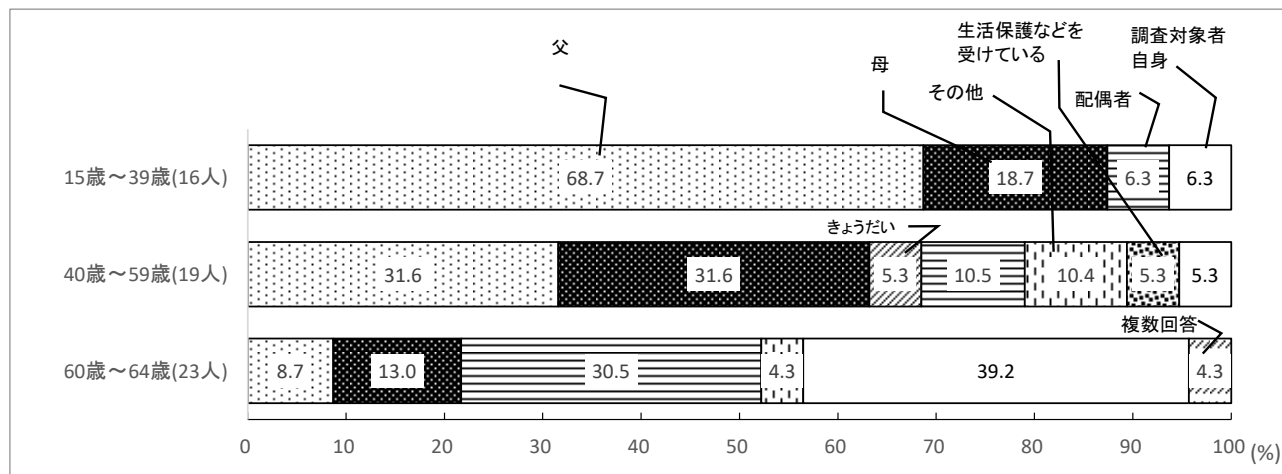
一般群



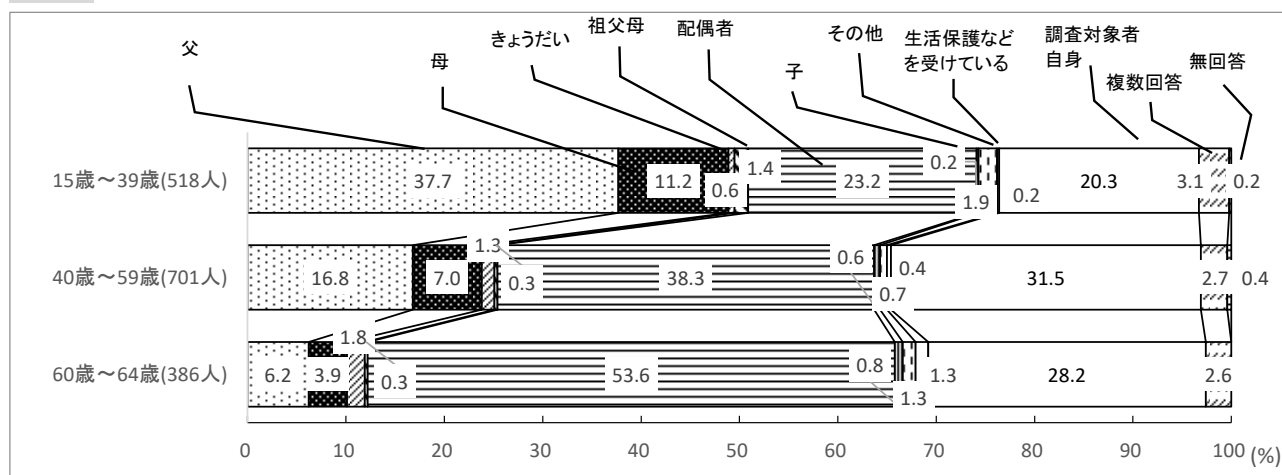
広義のひきこもり群について「2人」を年齢別に見ると、15歳～39歳(31.3%)、40歳～59歳(52.6%)、60歳～64歳(74.0%)と高齢になるにつれて二人世帯が増加傾向になる。

Q5 調査対象者の方の家の生計を立てているのは、主に調査対象者の方から見てどなたですか。生計を立てている方が複数いる場合は、もっとも多く家計を負担している人をお答えください。また、主に仕送りで生計を立てている方は、その仕送りを主にしてくれる人をお答えください。(〇はひとつだけ)

広義のひきこもり群



一般群

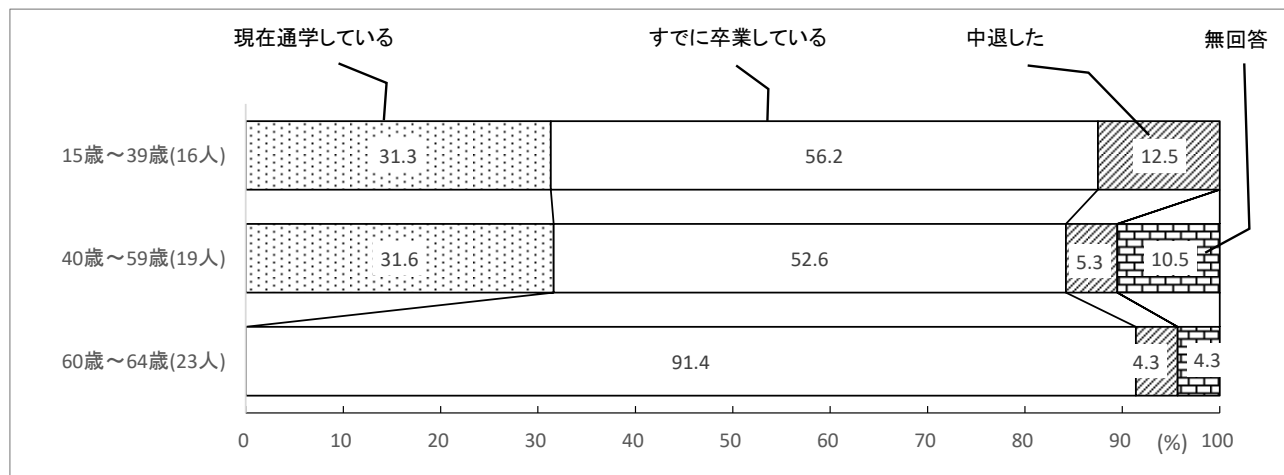


広義のひきこもり群および一般群の15歳～39歳では共に「父親」が最も多い(広義のひきこもり群68.7%、一般群37.7%)。「配偶者」については、広義のひきこもり群では40歳～59歳が10.5%、60歳～64歳が30.5%となっていて、一般群と比べて割合が少なくなっている。

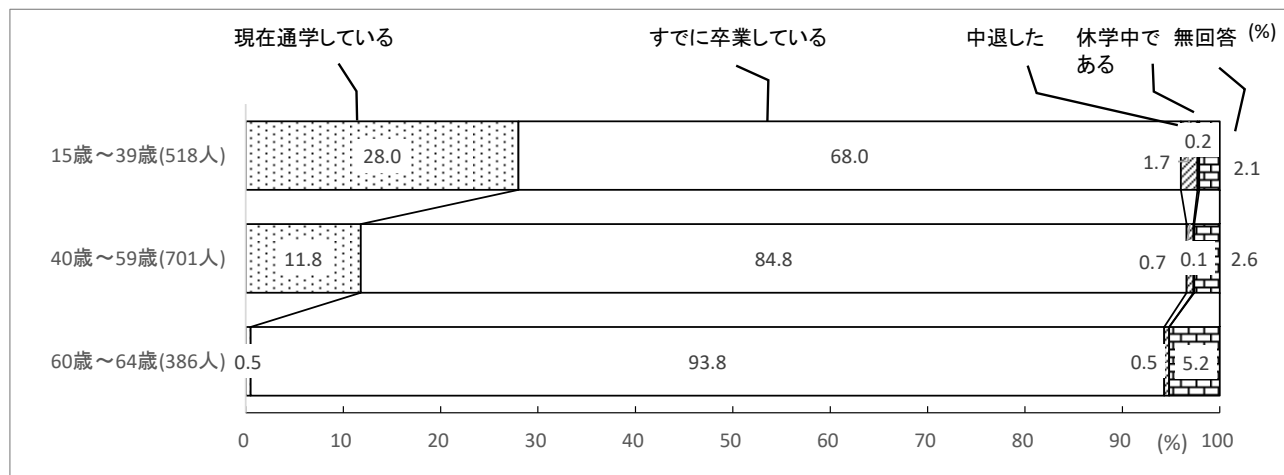
## (2) 調査対象者の学校生活に関すること

### Q6 調査対象者の方は現在、学校に通っていますか。(〇はひとつだけ)

広義のひきこもり群



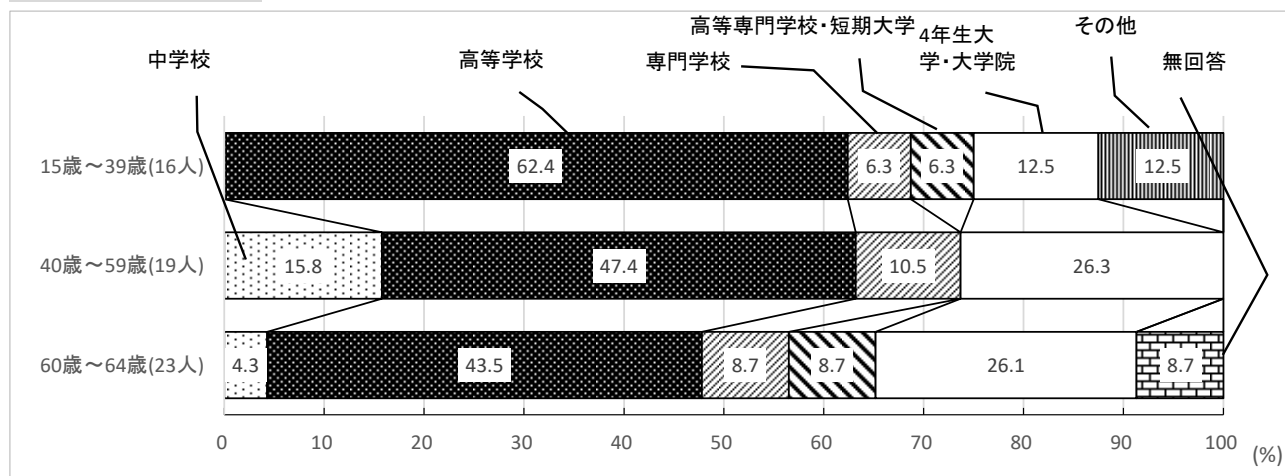
一般群



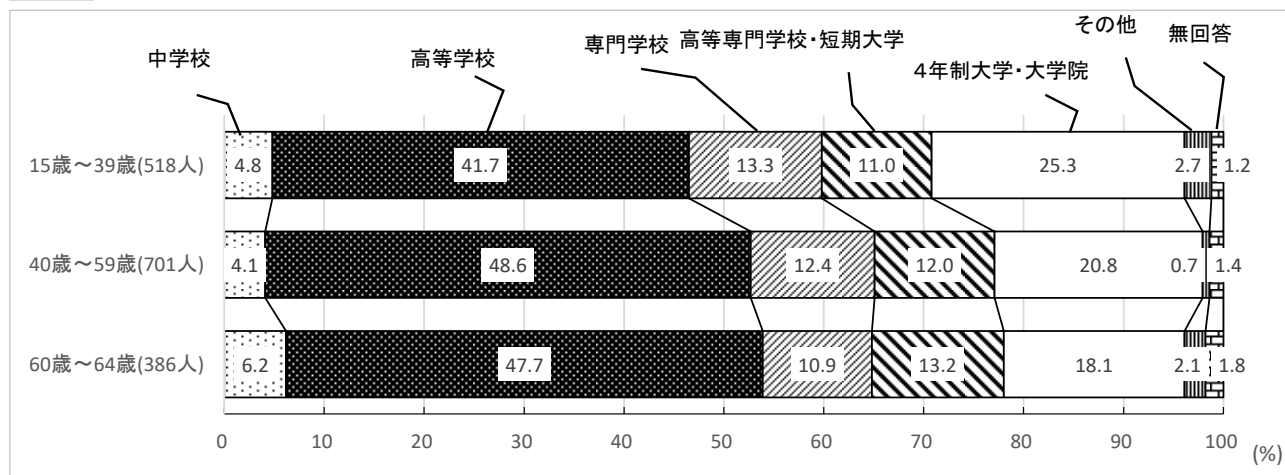
広義のひきこもり群では、15歳～39歳で中退した人は12.5%、以下、40歳～59歳(5.3%)、60歳～64歳(4.3%)となっている。

**Q7 調査対象の方が最後に卒業(中退を含む)した、または現在在学している学校はどれですか。(〇はひとつだけ)**

広義のひきこもり群



一般群



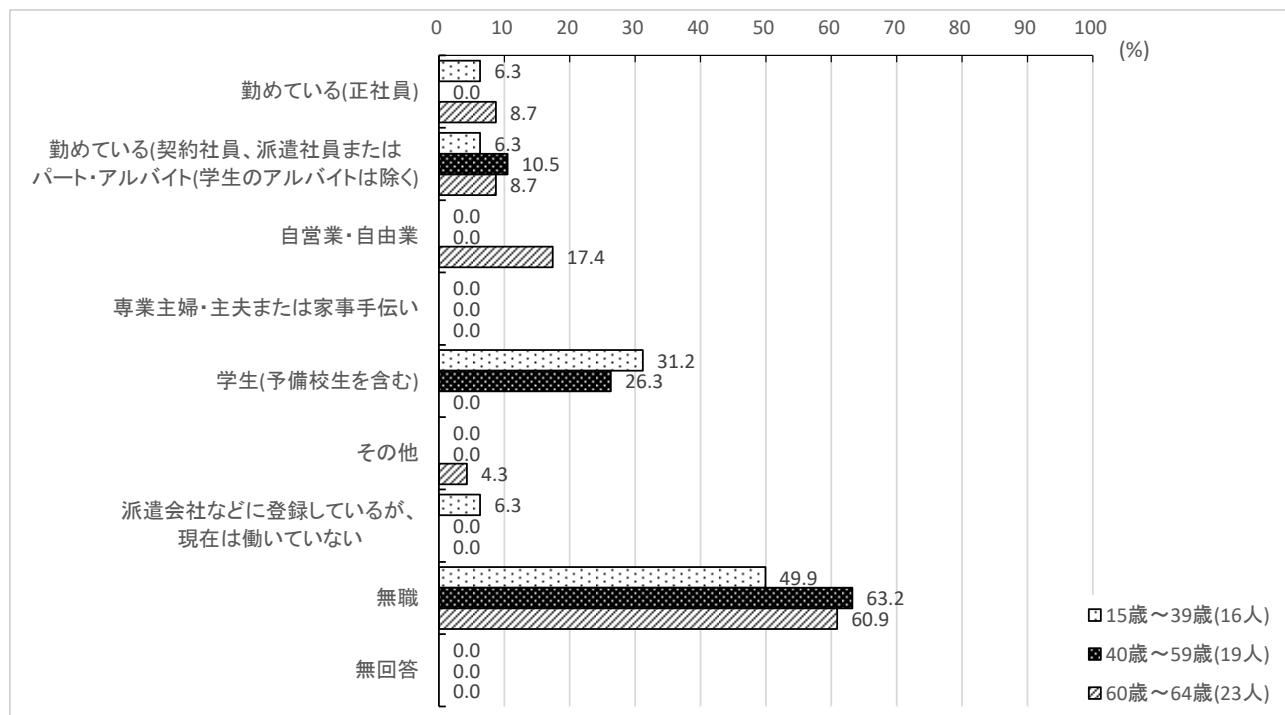
広義のひきこもり群および一般群では、すべての年代で「高等学校」が一番多くなっている。



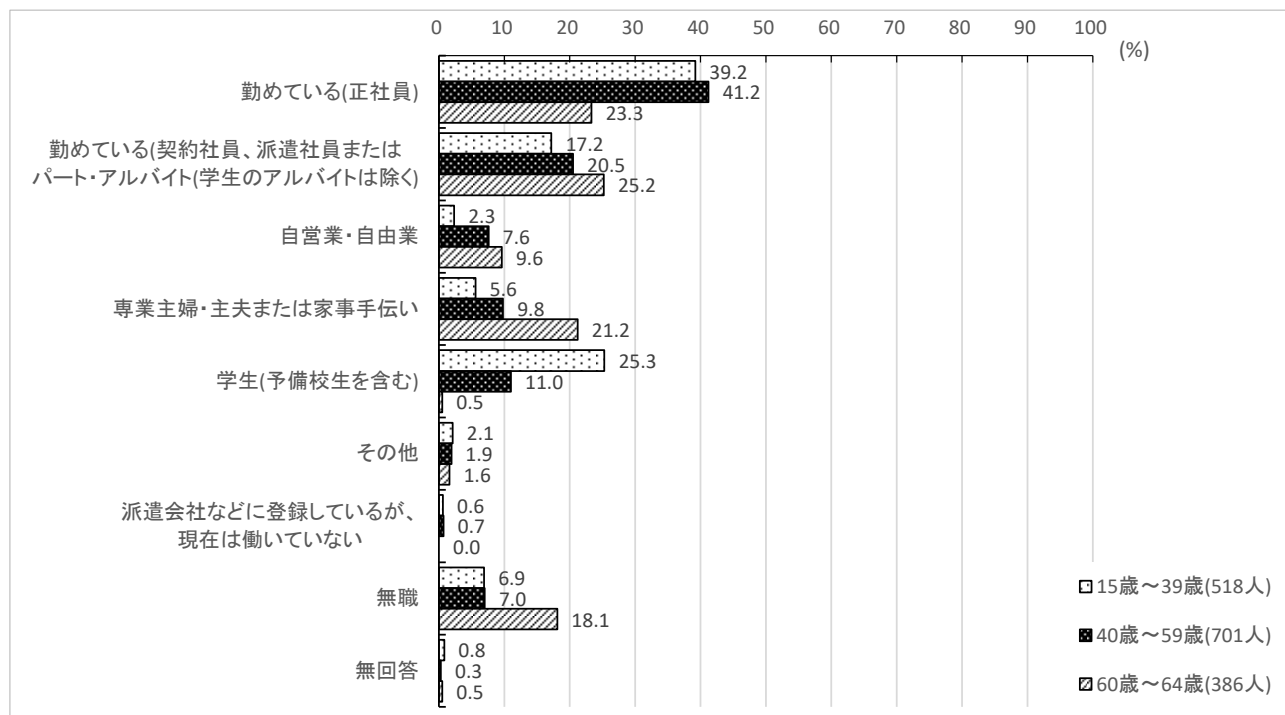
### (3) 調査対象者の就労等に関すること

#### Q8 調査対象者の方は、現在働いていますか。(〇はひとつだけ)

広義のひきこもり群



一般群

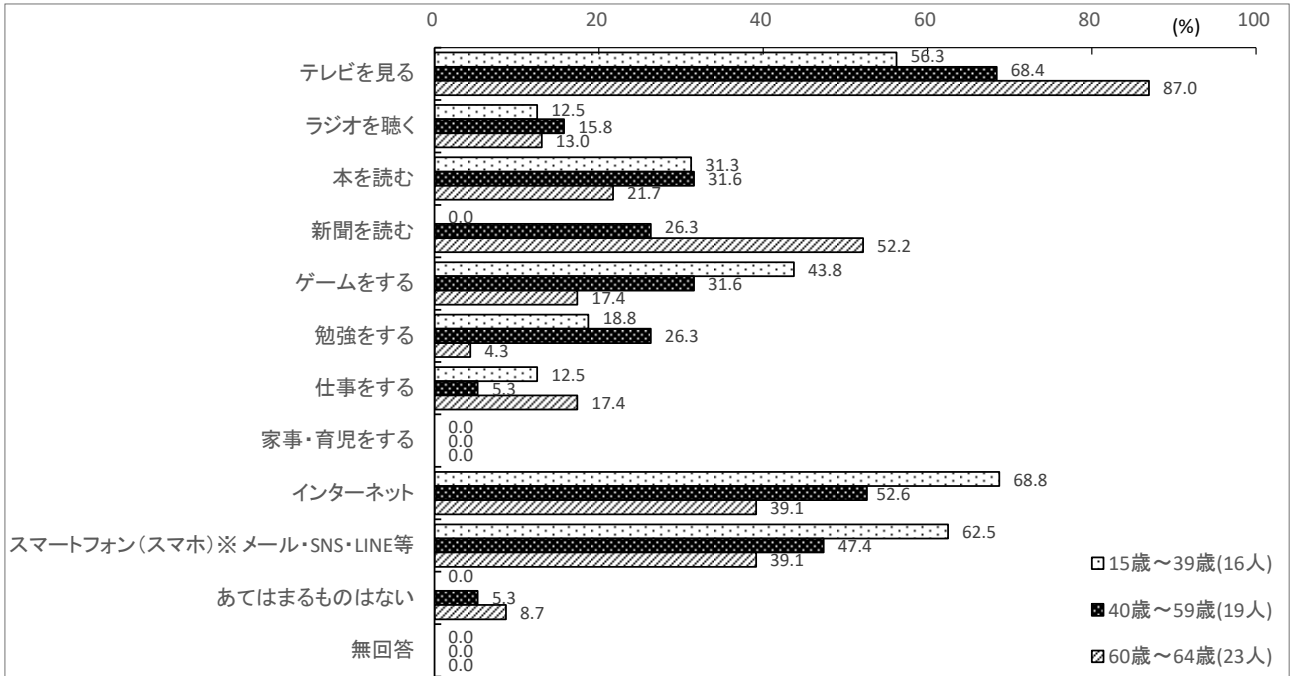


広義のひきこもり群では「無職」の占める割合が多く、15歳～39歳49.9%、40歳～59歳63.2%、60歳～64歳60.9%となっている。

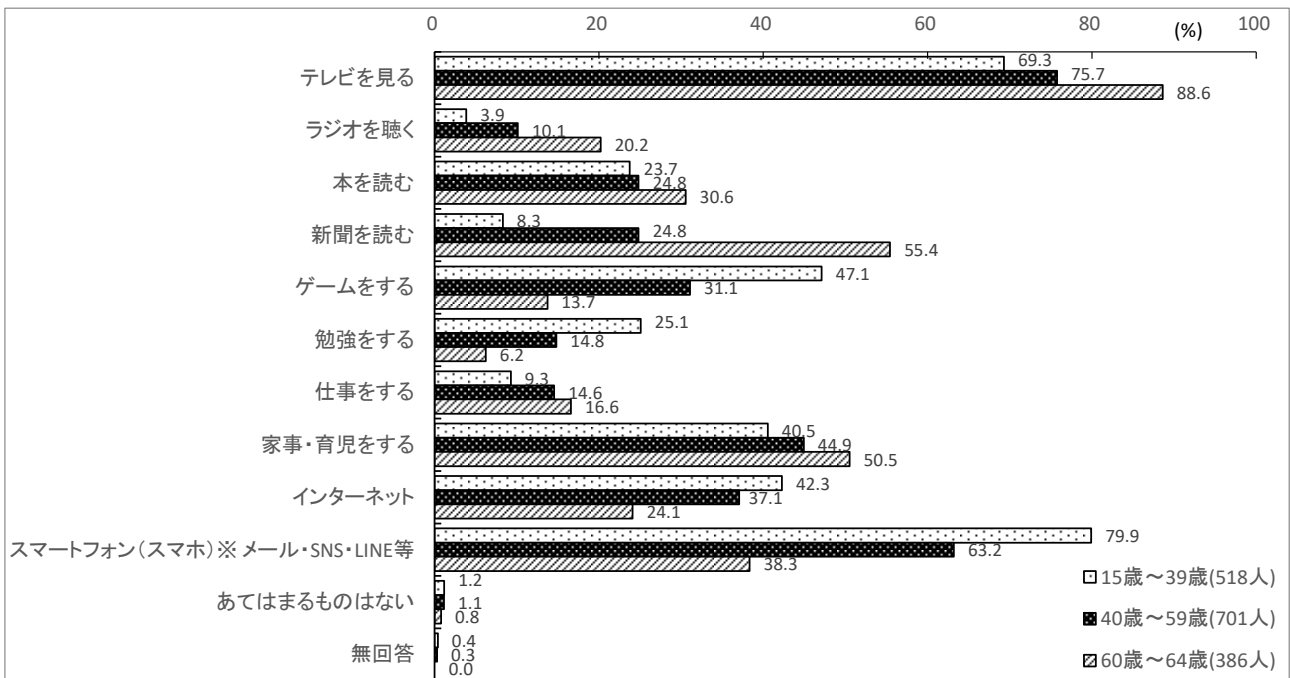
#### (4) 調査対象者のふだんの活動に関すること

Q9 調査対象者の方が、ふだんご自宅にいるときによくしていることすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

広義のひきこもり群



一般群

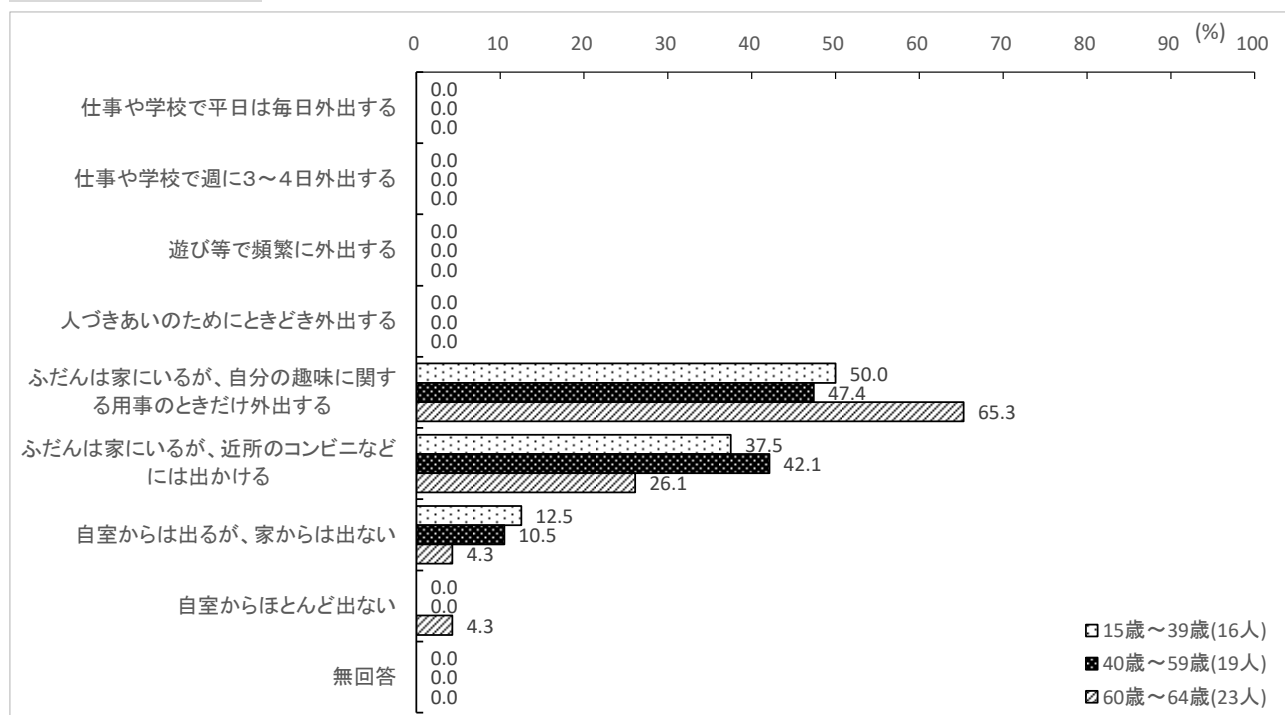


「テレビを見る」「新聞を見る」は高齢になるにつれて割合が多くなっている。「インターネット」「スマートフォン」は年代が若い方が多くなっている。

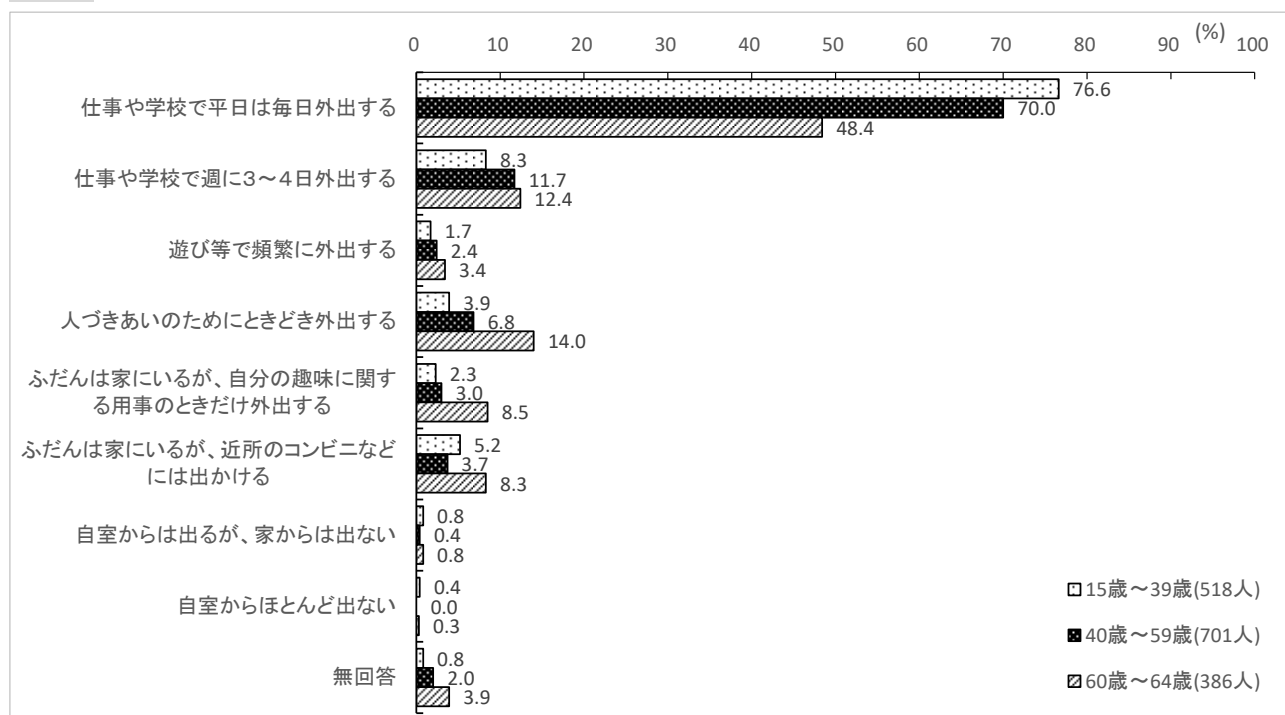
Q10 調査対象者の方は、ふだんどのくらい外出しますか。(○はひとつだけ)

※Q10 の設問は、広義のひきこもり群を判定するために使用

広義のひきこもり群



一般群



本人回答よりも家族回答の方が「狭義のひきこもり」に該当する割合が多くなっている。(本人調査票Q17)

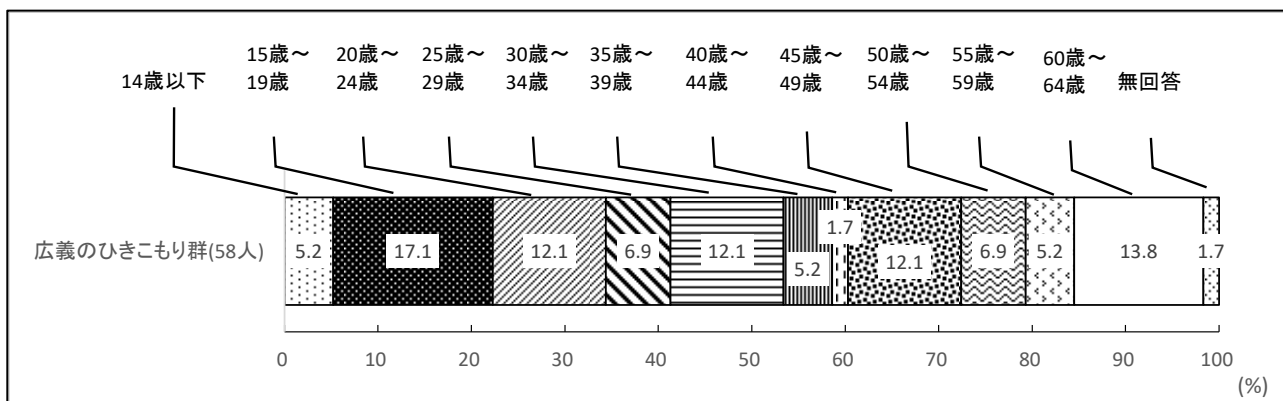
(5) 調査対象者のひきこもりの状態に関すること

※Q11～Q16は、Q10において外出頻度が低かった回答者(「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事のと看だけ外出する」,「ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」,「自室からは出るが、家からは出ない」または「自室からほとんど出ない」の選択者)のみが回答する項目となっている。

※本報告書では、その中でも広義のひきこもり群に該当する者の結果について記載する。

Q11 現在の状態になったのは、調査対象者の方が何歳の頃ですか。(数字で具体的に)

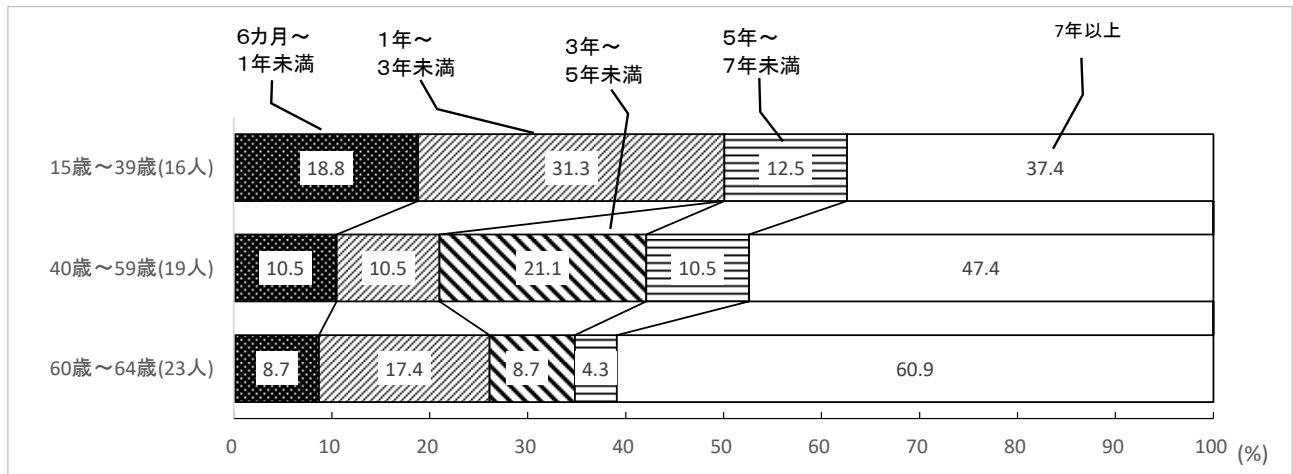
広義のひきこもり群



15歳～19歳までの割合が一番多い(17.1%)。

### Q12 調査対象の方が現在の状態となってどのくらい経ちますか。(〇はひとつだけ)

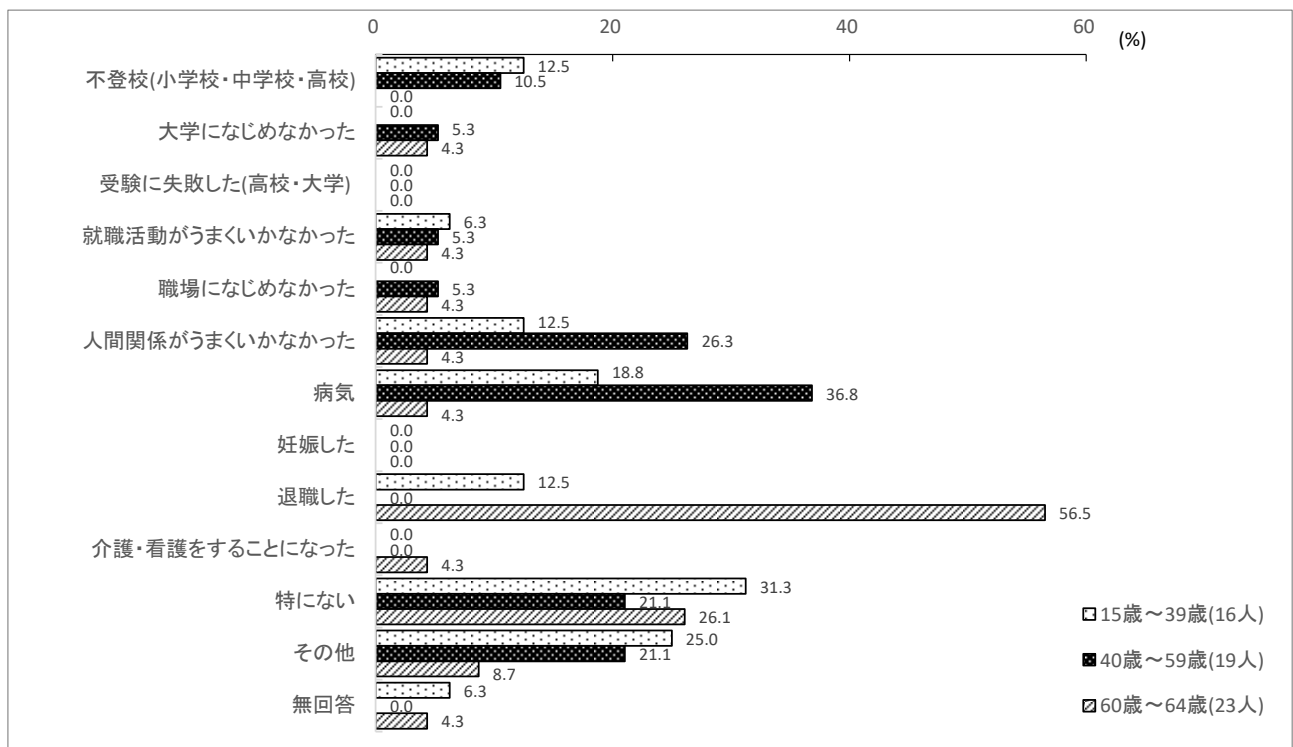
広義のひきこもり群



全年齢で「7年以上」が一番多かった。

### Q13 調査対象の方が現在の状態になったきっかけは何だと思いますか。(〇はいくつでも)

広義のひきこもり群

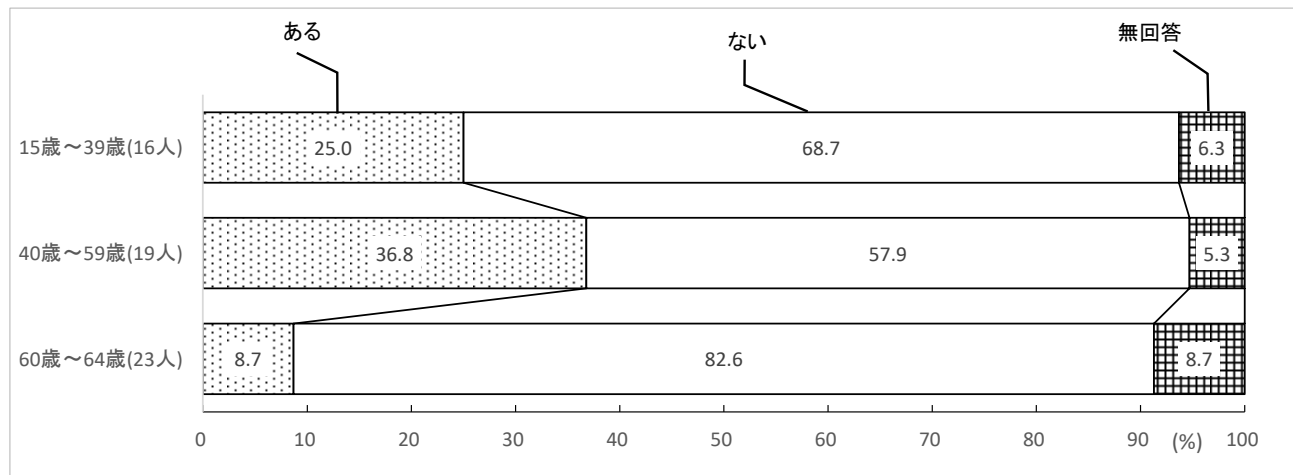


広義のひきこもり群の60歳～64歳では「退職した」が56.5%と多く、40歳～59歳では「病気」36.8%、「人間関係がうまくいかなかった」26.3%であった。

Q14 現在の状況について、調査対象者の方が関係機関に相談したことはありますか。

(○はひとつだけ)

広義のひきこもり群

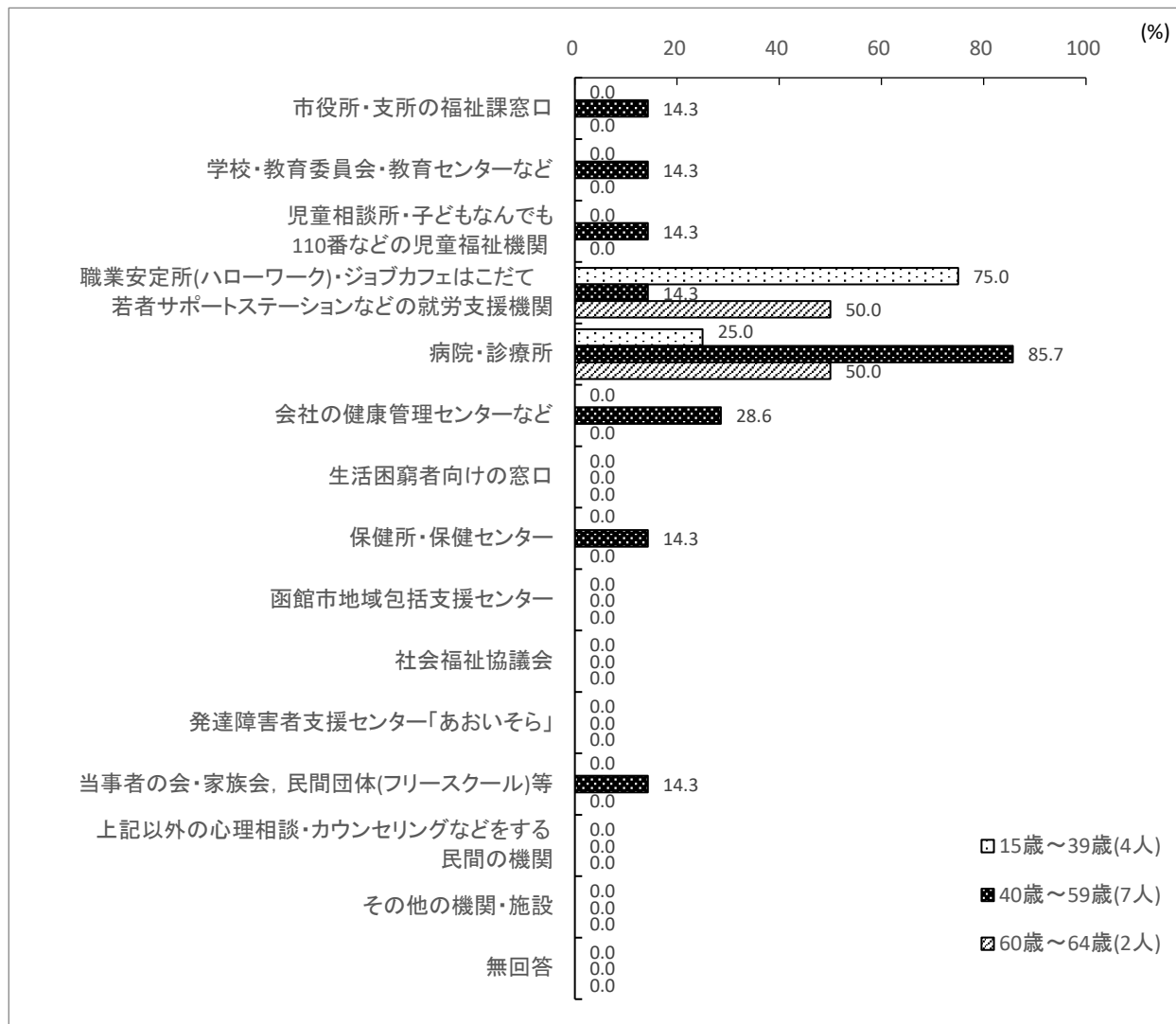


広義のひきこもり群では、調査対象者本人が相談したことが「ある」人が40歳～59歳では36.8%となっているが、60歳～64歳では8.7%と少ない割合となっている。

※SQ14-1 は、Q14 で「ある」の回答者のみ対象

SQ14-1 どのような関係機関に相談しましたか。相談したことがある機関に○をつけてください。  
(○はいくつでも)

広義のひきこもり群

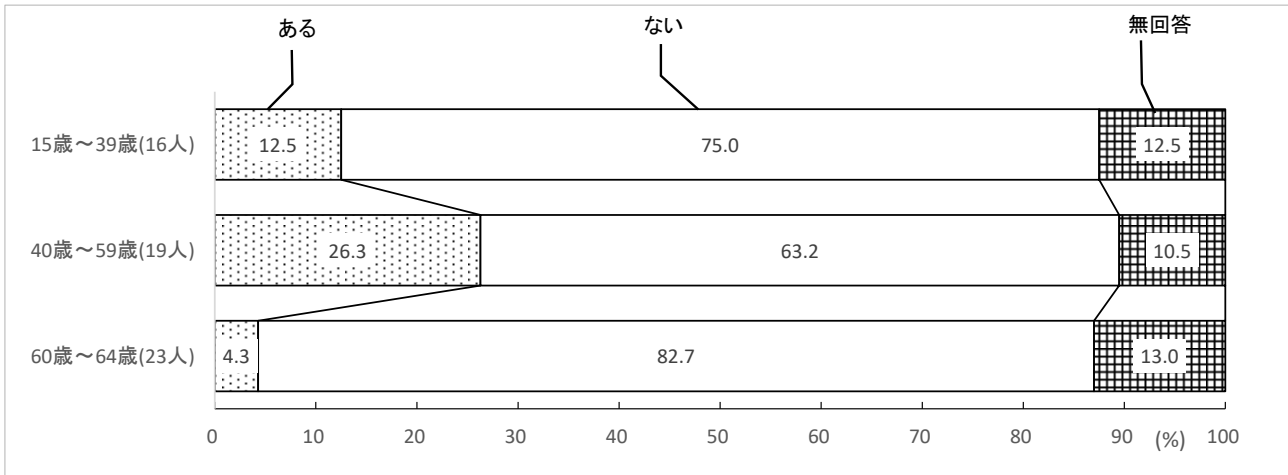


広義のひきこもり群の15歳～39歳では各種就労支援機関が75.0%と多い傾向が見られた。40歳～59歳は「病院・診療所」が85.7%と多くなっている。

## (6) 相談機関に関すること

Q15 現在の状況について、調査対象者の方のご家族の方が関係機関に相談したことはありますか。(〇はひとつだけ)

広義のひきこもり群



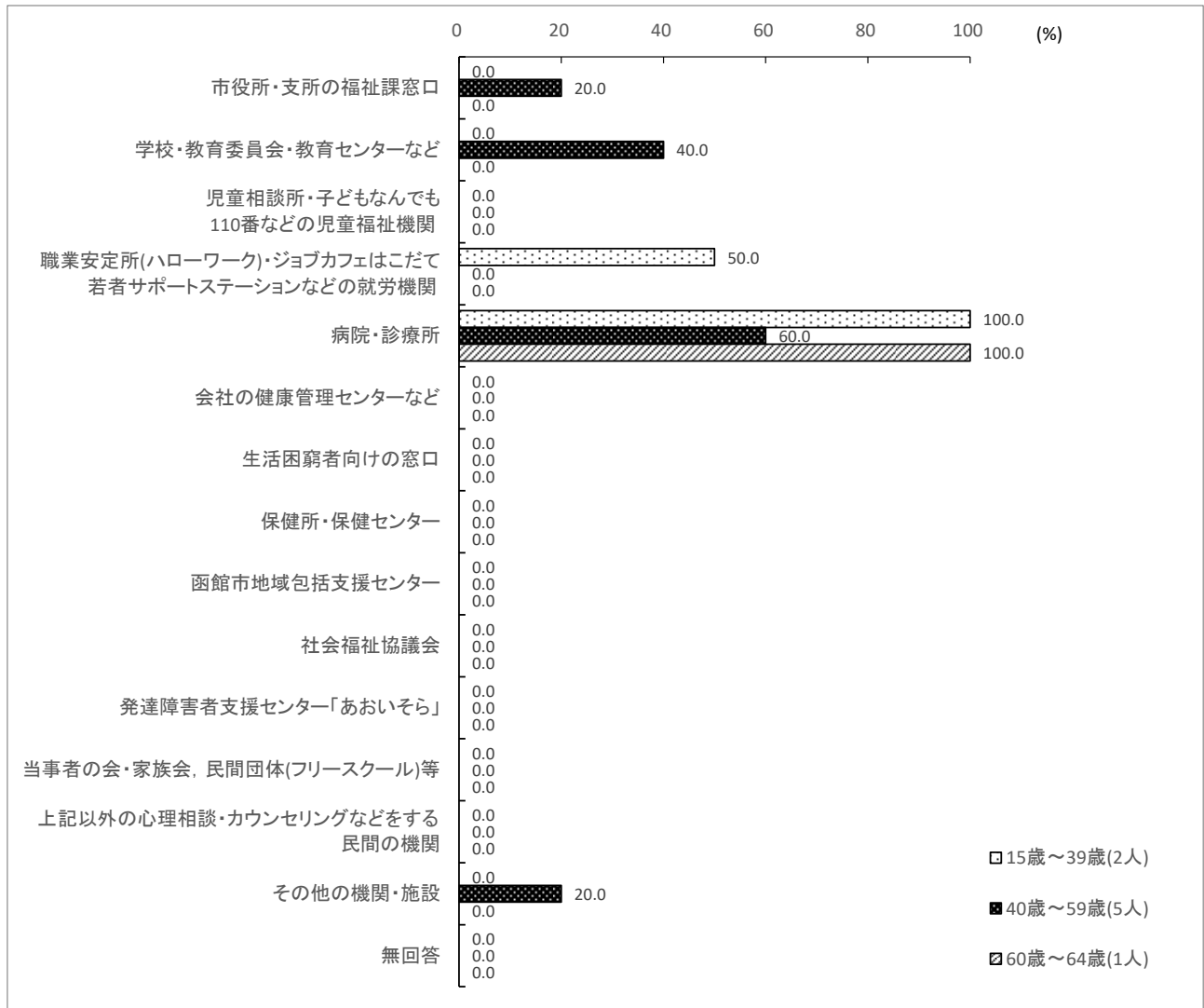
これまでの関係機関への相談の有無についてたずねたところ、各年代ともに「ない」との回答が多かった。



※SQ15-1, Q16 は, Q15 で「ある」の回答者のみ回答

SQ15-1 どのような関係機関に相談しましたか。相談したことがある機関に○をつけてください。  
(○はいくつでも)

広義のひきこもり群



広義のひきこもり群では、「病院・診療所」が全年齢で多くなっているが、該当数が少ないため、はっきりした傾向は読み取れない。

**Q16 相談機関に相談した結果について、どのようにお考えですか。ご自由にお書きください。**

主な回答について以下に抜粋した。

- ・地域の包括支援センターの内容をもっと高齢者の人々に宣伝し利用できるようにして欲しい。私も80歳越える高齢者ですがお隣の方（子どもなし）が倒れていても分からず吃驚する事が多々ある。（女性年齢未回答）
- ・新型コロナウイルスの関係で求人が無いがきちんと相談に乗ってくれている。とても感謝している。（男性60歳～64歳）
- ・趣味、スポーツ、料理、ウォーキング、登山等もっと具体的に働きかけて見てはどうでしょうか。メール、ライン等、またはインターネット等の活用。（男性55歳～59歳）
- ・薬による治療（眠剤・安定剤）のみで無く支援センター、作業場等で色々な体験をし、社会に出て欲しい。（本人が望んでいるが、なかなか機会が無い）（女性30歳～34歳）
- ・自死に至るのが最悪パターンとしての心配であったため、病院医師が障害者年金と障害者手帳の申請を進めて下さり気持ちが楽になり、当方の心的ストレスも少しだけ軽減された。（女性55歳～59歳）
- ・少しは気持ちが軽くなりました。周囲に相談する事は大事です。しっかりしたアドバイスは何より力になりアドバイスする方の人柄も大事です。難しい話をする方より周囲の能力に合わせた、説得力のある人望の方を選択するのが大事です。（女性60歳～64歳）
- ・病院受診は本人の気持ちが壊れないよう、先生と会話する事で心のつかえを吐き出す手口として利用するように言われております。現在は安定剤と睡眠導入剤使用継続中。学校責任者と常に情報交換し娘の状態によって登校のスケジュール調整して頂いております。（女性15歳～19歳）

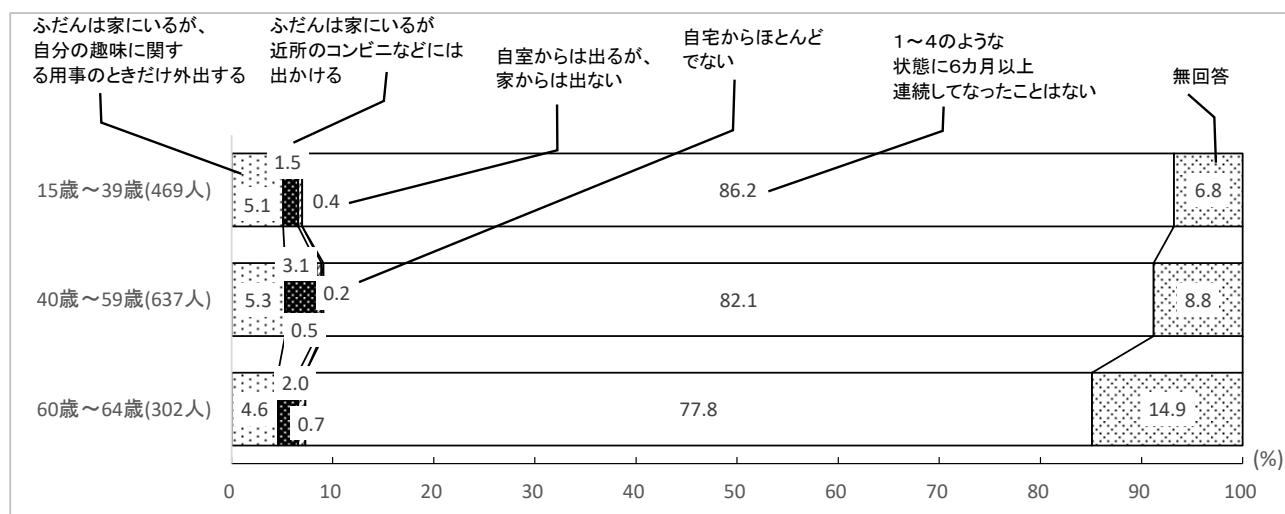
(7) 調査対象者のひきこもりの状態からの立ち直りに関すること

※Q17～Q19は、Q10で「仕事や学校で平日は毎日外出する」、「仕事や学校で週に3～4日外出する」、「遊び等で頻繁に外出する」または「人づきあいのためにときどき外出する」の回答者のみ対象

Q17 調査対象者の方は今までに6カ月以上連続して以下のような状態になったことはありますか。(○はひとつだけ)

※Q17の設問は、過去にひきこもり傾向があった人を把握するために使用

一般群

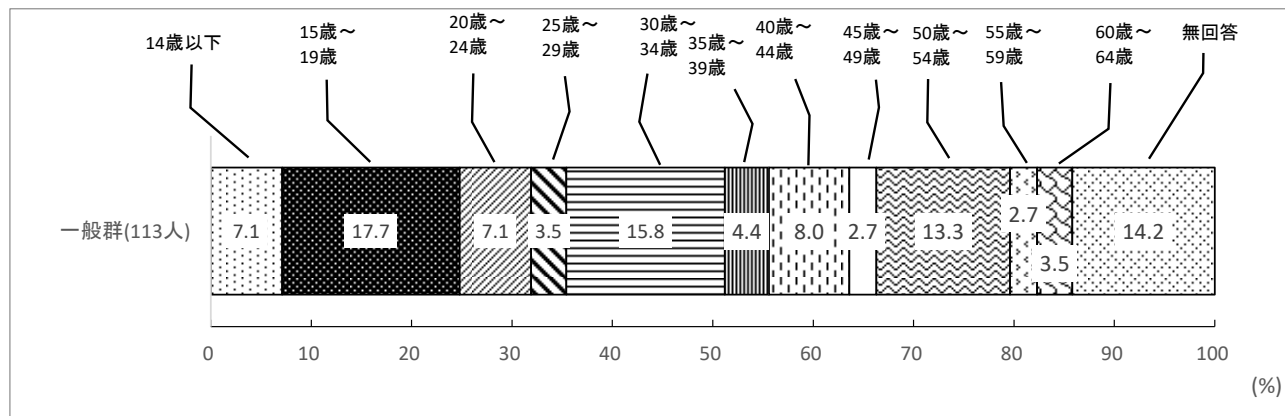


「ふだんは家にいるが自分の趣味に関する用事のときだけ外出する」が15歳～39歳(5.1%)、40歳～59歳(5.3%)、60歳～64歳(4.6%)と割合が多くはないが一定数いる傾向が見られた。

※Q18～Q19 は、Q17 で外出頻度が低かった回答者(「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事のときだけ外出する」、「ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」、「自室からは出るが、家からは出ない」または「自室からほとんど出ない」の選択者)のみ対象

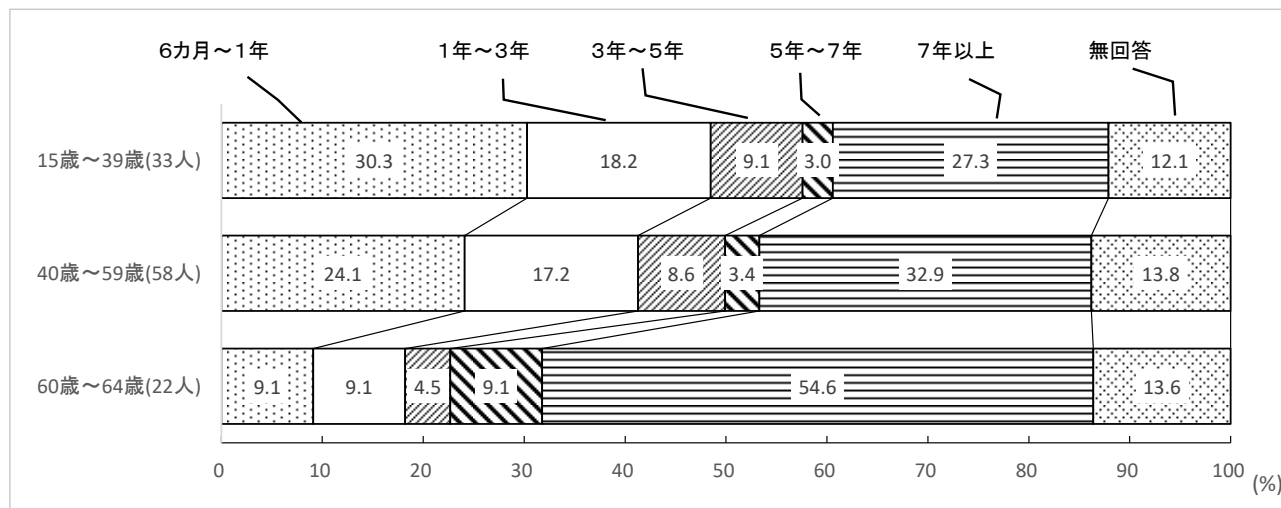
Q18 その状態になったのは、調査対象者の方が何歳の頃ですか。(数字で具体的に)

一般群



15歳～39歳が17.7%と最も多かった。

Q19 その状態はどれくらい続きましたか。(○はひとつだけ)

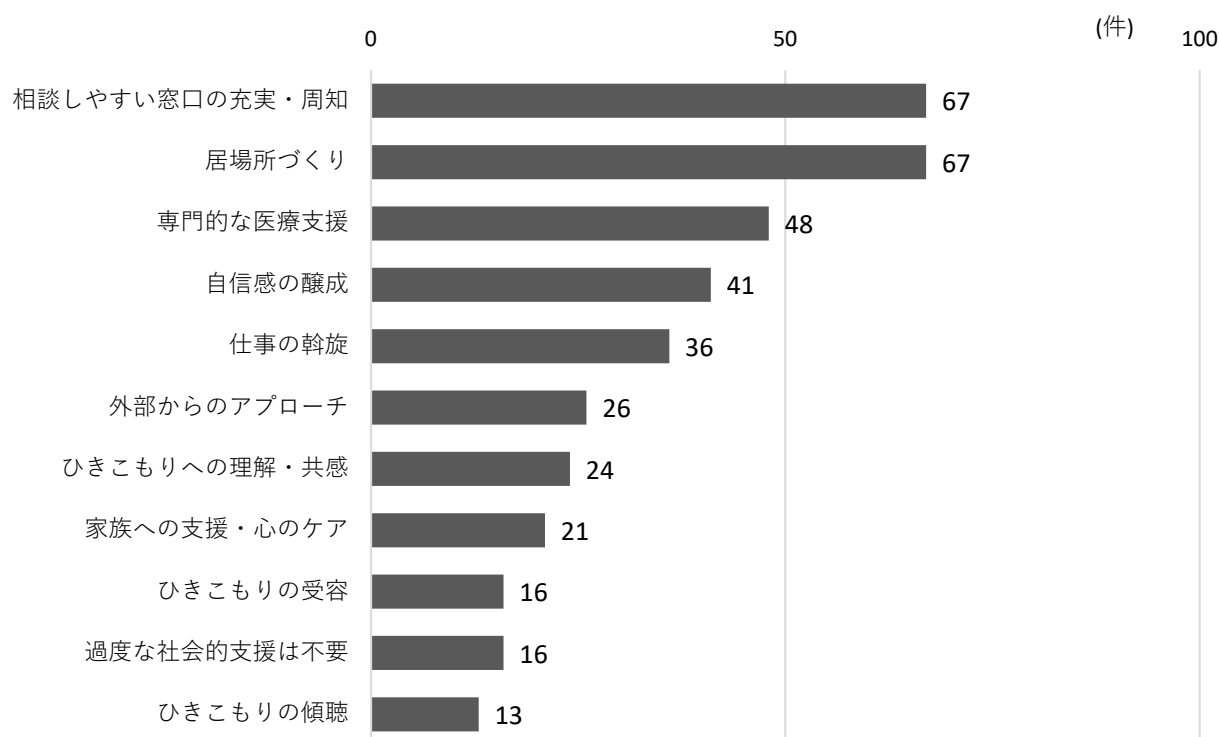


7年以上が15歳~39歳(27.3%), 40歳~59歳(32.9%), 60歳~64歳(54.6%)と年齢層が上がるにつれて増加傾向となっている。

(8) 身体の病気以外の理由でふだん外出ができない人たちの支援のあり方について

Q20 現在、函館市では、身体の病気以外の理由でふだん外出ができない人たちの支援のあり方を検討しています。こうした支援のあり方について、ご意見があれば、ご自由にお書きください。

回答内容を分類し、主な回答について以下に抜粋した。



相談しやすい窓口の充実・周知

- ・色々な支援が気軽に使える様に相談出来る場所を「市政はこだて」「FMいるか」等、皆が見聞き出来るもので知らせてあげると良いのではと考える。また、身体的病気以外の人達の支援には関わる者への支援も同時に行う必要があると考える。(男性 55歳～59歳)
- ・気軽に相談できるSNSでもあると今は良いのかもしれない。(男性 年齢回答なし)

居場所づくり

- ・気軽に外出できる環境を整えてみてはいかがでしょうか。(男性 50歳～54歳)
- ・病気でもなく介護認定もつかない親がいます。仕事を辞め友達も居らず配偶者も側に居ません。気軽に集まれるデイサービスの前段階のようなサークルがあれば良いと思います。(女性 25歳～29歳)
- ・子供の同級生の中には小学生・中学生の頃から不登校の子が数人います。家からあまり出ないようですが、友達が遊びに行くとゲームをして遊んでいたそうです。その様な子供達のため、学校以外の学び・友人との交流の場があったらいいと思います。それも市内に1か所ではなく行きやすいように数か所あったら良いと思います。(女性 45歳～49歳)

#### 専門的な医療支援

- ・在宅カウンセラーや在宅医療など専門的な立場の人が家や電話で本人や家族を直接アプローチ出来る必要な支援に繋がられるような体制があると心強いと思う。(男性 35 歳～39 歳)

#### 自信感の醸成

- ・私は生まれつき大きなアザがあり幼い頃から外出先での視線に苦勞して来ました。私のように外見が気になって外出したくても出来ない人が少しでも減ってくれると嬉しいです。結局は本人達の強い意志が大切だと思いますし、そのように支援してくれるという気持ちだけで少しでも楽になれると思います。(女性 15 歳～19 歳)

#### 仕事の斡旋

- ・自宅で働ける環境をもっと支援してあげても良い気がします。このアンケートだと外に出て働かないと、と感じ取れますが、世の中外に出なくてもあまり人と会わなくても出来る仕事があるので、もっと選択出来る環境を整備したらいかがでしょう。(女性 45 歳～49 歳)

#### 外部からのアプローチ

- ・児童・社会人・高齢者のどの場合でも、その人の外出する時間を作るために負担を肩代わりする人材や相談出来る人、場所が近くにある事が大事だと考える。(女性 50 歳～54 歳)

#### ひきこもりへの理解・共感

- ・外出できない理由により支援の方法も変わるのでは。家族の手助けで解決出来る場合と、行政が関わらなければいけない事例の見極めが必要不可欠。行政の支援＝税金の使用と思うので、慎重な判断が必要だが早急な対応も要する場合もあると思う。(女性 45 歳～49 歳)

#### 家族への支援・心のケア

- ・ひきこもり本人だけでなく家族の心のケアを行って欲しい。その状態を「仕方ない」と諦めているケースを聞いた事がある。家族だけで孤立しないケアが大切と思う。(女性 50 歳～54 歳)

#### ひきこもりの受容

- ・身体の病気でなければ心の病気なので環境を変えたり、心のケアをしてあげるべきと考えます。独りぼっちにならない環境をつくる。(女性 50 歳～54 歳)

#### 過度な社会的支援は不要

- ・個人的な考えではあるが支援の必要はないと思う(市がやる事ではない)。家族がやる事と考える。(男性 45 歳～49 歳)

#### ひきこもりの傾聴

- ・無理に外出させるのではなく、その方達が興味を持つ事から少しずつ参加してもらい、同じ悩みを持つ方と知り合い友人となり、相談しあえるような場があれば良いなと思います。(男性 60 歳～64 歳)

